

研究・調査報告書

報告書番号	担当
47	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Alcohol consumption is associated with an increased risk of distal colon and rectal cancer in Japanese men: the Miyagi Cohort Study. 飲酒は日本人男性において遠位結腸ガン・直腸ガンのリスク増加と関連している: Miyagi Cohort Study</p>	
執筆者	
Akhter M, Kuriyama S, Nakaya N, Shimazu T, Ohmori K, Nishino Y, Tsubono Y, Fukao A, Tsuji I.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Eur J Cancer. 2007 Jan;43(2):383-90.	
キーワード	
アルコール、大腸ガン、前向き研究、男性、日本	
要旨	
<p>目的： 飲酒と近位あるいは遠位結腸ガン、直腸ガンとの関連は明らかでない。この関連について、日本人男性の大規模コホート研究にて検討した。</p> <p>方法： 飲酒および他の健康習慣についての自記式の質問票を、1990年に40-69歳の日本人男性25,279名に送付した。飲酒に関する質問への回答に不備のあったもの、およびベースライン時にガンに罹患していた者は除外し、21,199名を解析対象とした。</p> <p>結果： 307名が11年間の追跡期間中に大腸ガンと診断された。コックス比例ハザードモデルを用いて、交絡因子調整後のハザード比(HR)と95%信頼区間(CI)を推定した。飲酒習慣のなかった者と比較して、禁酒者および現在飲酒者の大腸ガンのHRは、それぞれ1.1(95%CI、0.6-1.9)および1.6(95%CI、1.1-2.2)であった。現在飲酒者のアルコール量との量反応関係は、遠位結腸ガンおよび直腸ガンについては観察されたが、近位結腸ガンについては観察されなかった。現在多量飲酒者(エタノール45.6g/日以上)の、遠位結腸ガンおよび直腸ガンについての調整HR(年齢、大腸ガン家族歴、教育、体格指数(BMI)、歩行時間、喫煙状況、肉・緑黄色野菜・果物の摂取頻度を調整)は、非飲酒者に比較して、それぞれ4.2(1.6-10.7, 傾向性のp=0.0002)および1.8(1.1-3.2, 傾向性のp=0.04)であった。これに対して、近位結腸ガンにおいては、有意な線形性の関連は見られなかった(傾向性のp=0.2)。</p> <p>結論： 日本人男性において、アルコール摂取は近位結腸ガンおよび直腸ガンのリスク増加に統計上有意に関連したが、この関連は近位結腸ガンにおいては観察されなかった。</p>	